

コンニャクの貯蔵管理と土壌対策について

R3年は、生育期の降雨の影響により、根腐病、腐敗病の発病が散見されました。また、種イモからの腐敗病とみられる症状も生育初期に発生しました。また、R2年の作柄から生子・種イモともに少なかつたため、種イモ確保に苦慮した方が多かつたと思います。

種イモの選別や貯蔵管理は今後の栽培に大きな影響を与えるため、丁寧な管理が必要不可欠です。

一．貯蔵管理と選別の注意点

【貯蔵管理方法】

貯蔵庫内は、適当な空間を作り風通しを良くしましょう。空気の動きが滞ることで、貯蔵庫内の温度差が大きくなり、カビや腐敗球の発生を助長します。

貯蔵後期(3月中旬頃)になると、貯蔵庫内の湿度が高まります。朝夕の涼しい時間帯の換気や、空気の動きが悪い場所は扇風機の位置を見直し、風通しを良くしましょう。

【貯蔵期の発病と種芋選別】

イモの選別時に病害球が混入すると、その後のコンニャク栽培に大きく影響します。選別時に少しでもおかしいと思った種イモは植玉にせず、処分しましょう。

3月以降になると、病害球が増加します。例年、芽トビが多い場合は、再度選別時期や選別方法を見直し、丁寧な選別を心がけましょう。

種イモ消毒は、曇天時や雨天時は避け、登録のある薬剤を使用し、消毒後は、速やかに種イモを乾かしてください。また、生子・種イモともに前年に比べ確保されていると思いますが、選別を丁寧に行い、病害球のほ場への持ち込みを軽減させましょう。

【みやまざり生子休眠対策】

みやまざりは、耐病性や収量性に優れた品種です。しかし、生子では、予備乾燥や貯蔵管理、栽培期間中の環境要因等によって休眠が発生する場合があります。本貯蔵中の温度が5℃以下または、15℃以上になると休眠打破が出

来ず、植付しても、休眠したまま、出芽できなくなってしまう場合があります。また、光や風にあたることと休眠することがあるため、遮光し、風を直接生子に当てないように注意しましょう。

二．土壌消毒の安全対策について

【土壌消毒の安全対策】

住宅やハウスとコンニャクほ場が混在する地域では、周辺環境を考慮し、次の対策をしましょう。

→ 住宅やハウス等に隣接しているほ場では、土壌くん蒸剤を使用せず、緑肥作物や野菜類との輪作を行ってください。

↳ 土壌消毒処理後は速やかに0.3ミリ以上のポリフィルムで全面被覆し、十分な被覆期間を取り、危害防止に努めてください。特に、地温が低いときは被覆期間を長く設けガスが残っていないことを確認してから被覆資材の除去をしましょう。

ω 被覆除去後のポリフィルムは速やかに畑から移動し、適正に処

理しましょう。

↳ クロルピクリンのガスは空気の5.7倍の重さがあるため、処理後のガスが停滞する心配があるため注意しましょう。

ω 空き缶は周囲に影響を及ぼさない場所で適正処理して下さい。



写真1 畑に放置されたポリフィルム

(渋川地区農業指導センター)